



WEBINAR WITH LIVE Q&A

DNAシーケンシングの過去と現在： 自動化ワークフローが切り拓く ゲノミクスの新時代

2025年9月11日 | 10:00 -11:00 AM (日本標準時)

DNAシーケンシングは、かつてはDNA塩基を一つひとつ読み取るという非常に手間のかかる作業でしたが、現在ではNGSにより数日でヒト全ゲノムを解析することが可能となりました。本講演では、そもそも「次世代シーケンシング」と呼ばれる技術の本質が何であったのかを考えた後、現在汎用されている短鎖リード型の次世代シーケンシングによるヒト遺伝学的検査の現場の状況を紹介します。ここでは、NEXTFLEX™ のような効率的なライブラリ調製キットや、JANUS™ワークステーションのような自動分注機テクノロジーを活用することで、従来のスループット、再現性、コストに関するボトルネックを解消しています。

本ウェビナーの主要なポイント：

- **NGSの基礎**：SBSテクノロジーの理解と短鎖リード型が汎用されるようになった背景
- **シーケンス品質とスケールアップの最適化**：NEXTFLEXライブラリキットとJANUS自動分注機による堅牢なワークフローと確実なデータ取得
- **NGSの将来展望**：今後のアプリケーション



ぜひご登録ください。
Click or scan



小原 収 博士

かずさDNA研究所 副所長
ゲノム事業推進部長

小原 収 博士は、公益財団法人かずさDNA研究所の常務理事であり、ゲノム研究の分野で長年にわたり活躍してきた研究者です。京都大学で博士号（生物物理学）を取得後、塩野義製薬、ハーバード大学での研究を経て、かずさDNA研究所を本務として、理化学研究所や千葉大学、信州大学などで要職を歴任。現在も、クリニカルシーケンスやゲノミクス研究の推進に尽力しています。並行して、ゲノム情報を補完するためのプロテオミクス解析の技術開発に特に最近は注力しています。日本免疫不全・自己炎症学会顧問、日本オミックス医学会および日本マスクリーニング学会の理事も務めています。